

令和5年度  
事業計画書

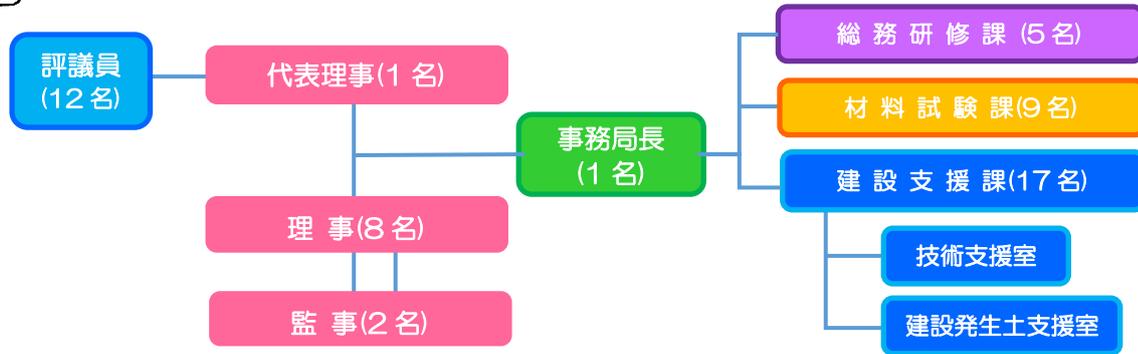
令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

公益財団法人鳥取県建設技術センター

# 目 次

①	組織	1 頁
②	事務局職員	1 頁
③	令和 5 年度事業一覧表	1 頁
	令和 5 年度事業別収支予算一覧表	2 頁
④	社会資本整備事業	3～6 頁
	1-1 研修事業	
	1-1-1 自主研修	(3～5 頁)
	1-1-2 受託研修	(6 頁)
	1-1-3 その他の研修	(6 頁)
	1-2 図書等頒布事業	7 頁
	1-3 試験検査事業	8～9 頁
	1-4 技術支援事業	10～12 頁
	1-5 建設発生土受入事業	13～15 頁
⑤	法人の運営・管理の運営	15 頁

# 1 組織



※臨時的任用職員 10 名、非常勤職員 1 名、日々雇用職員 3 名含む

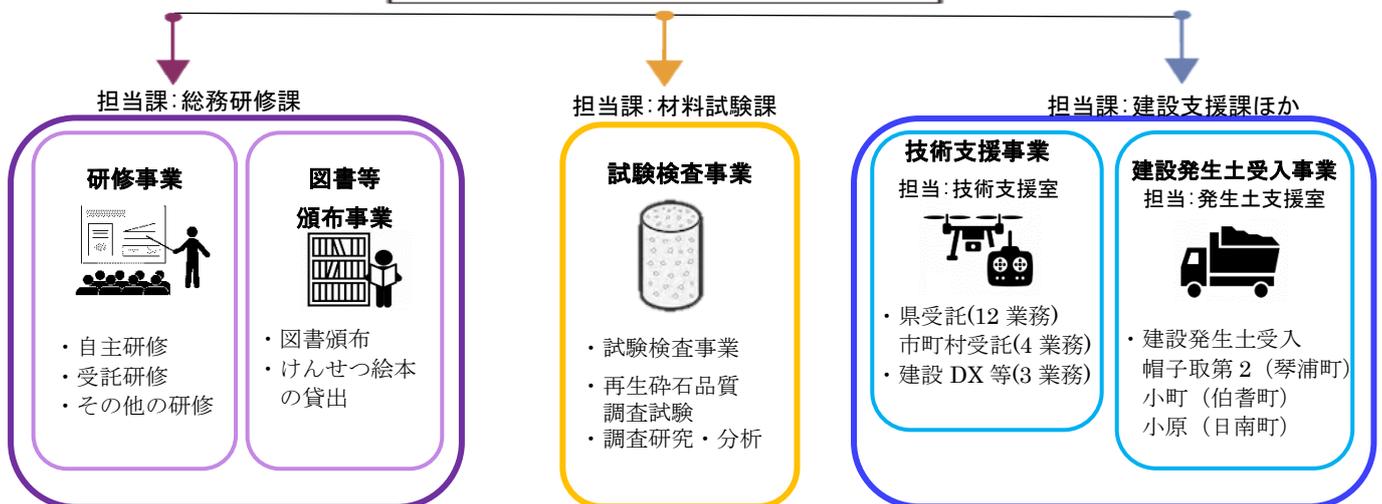
# 2 事務局職員

(R5.3.1 現在)

所 属	主な業務	職 名	氏 名	備 考
		事務局長(兼)総務研修課長	長 谷 善 幸	
総務研修課	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修事業 (自主、受託研修)</li> <li>鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会事務局</li> <li>とっとり建設☆女星 NW 事務局</li> <li>図書頒布事業</li> <li>建設工事下請取引調査</li> </ul>	主 幹	前 田 民 子	
		主 幹	浦 田 純 子	
		副主幹	藤 井 成 之	
材料試験課	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験検査事業</li> <li>再生砕石品質調査試験</li> </ul>	課 長	青 滝 一 志	
		課長補佐	宮 脇 泰 一 郎	
		主 幹	大 西 慶 祐	
建設支援課		課 長	福 長 宏 之	(県派遣)
建設発生土支援室	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設発生土受入事業</li> </ul>	室 長	高 浜 耕 之 輔	
		主 幹	井 上 純 一	
		参 与	前 田 健 文	
技術支援室	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術支援事業 県、市町村等の積算、監督補助、検査業務</li> <li>市町村インフラ維持管理支援</li> <li>災害復旧支援</li> <li>新技術への支援</li> <li>橋梁マネジメント開発共同研究</li> <li>建設 DX 推進プロジェクト</li> </ul>	課長(兼)室長	福 長 宏 之	
		主 幹	竺 原 努	
		参 与	反 田 敏 博	
		参 与	赤 川 定	
		副主幹	井 上 和 大	
		副主幹	石 黒 友 規	
		技 師	石 井 一 彦	
技 師	岡 野 博 樹			

# 3 令和5年度事業一覧表

## 社会資本整備事業【公益目的事業】



令和5年度 事業別収支予算一覧表

(単位：千円)

事業名	内 訳	収入①	支出②	差引①－②	
1-1 研修事業	(1) 研修事業収入	1-1-1 自主研修	20,058		
		1-1-2 受託研修	4,683		
		1-1-3 その他の研修 ・とっとり建設産業の魅力発信講座 ・建設産業育成研修	0 6,500		
		計	31,241		
	(2) 減価償却引当資産取崩収入	3,256			
小計		34,497	34,094	403	
1-2 図書頒布事業		266	319	△ 53	
1-3 試験検査事業	(1) 試験検査事業収入	(2) 受取地方公共団体補助金収入	64,830	59,948	
		(3) 減価償却引当資産取崩収入	1,800		
		(4) その他	750		
			20		
		小計	67,400	59,948	7,452
1-4 技術支援事業	(1) 受託収入 (県関係)	① 建設工事下請取引等点検調査	4,341		
		② 再生砕石品質実態調査に係る試験	854		
		③ 工事積算補助	29,117		
		④ ひび割れ診断	1,940		
		⑤ 新技術・新工法活用システム事前審査	700		
		⑥ 道路台帳等修正	13,678		
		⑦ 工事検査補助	1,012		
		⑧ 電子成果品保管・管理	5,896		
		⑨ 賃金水準等詳細調査	3,713		
		⑩ 土木工事共通仕様書の改訂	973		
		⑪ 橋梁直営点検・診断	6,300		
		⑫ 公共残土利用促進	4,489		
		計	73,013		
(2) 受託収入 (市町村関係)	① 工事積算補助	22,190			
	② 現場技術	6,313			
	③ 橋梁補修工事の積算、現場管理補助及び技術的アドバイス	45,008			
	④ 工事検査補助	1,734			
	計	75,245			
(3) その他	① 災害復旧支援	3,000			
	② コンクリートひび割れ相談	2,000			
	③ 建設DX推進プロジェクト	4,102			
	計	9,102			
小計		157,360	134,294	23,066	
1-5 建設発生土受入事業	(1) 受入収入	① 帽子取2 (計画27,000㎡)	49,005		
		② 小町 (計画140,000㎡)	267,960		
		③ 小原 (計画49,000㎡)	129,360		
		計	446,325	442,339	
		(2) 受取地方公共団体補助金収入	14,000		
(3) その他	9				
小計		460,334	442,339	17,995	
管理費		81	33,931	△ 33,850	
当期収支差額		719,938	704,925	15,013	

## 4 社会資本整備事業

### 1-1 研修事業

研修検討委員会の意見、アンケート結果、業界のニーズを踏まえ、「はじめての現場管理」等5研修を新規に計画するとともに、継続する研修についても研修内容や講師を一部変更して実施します。

### ○令和5年度事業のポイント

第4期経営改善計画		R5年度事業のポイント	
実践 研修	若手技術者のための基礎研修の拡充	現場研修の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人技術者のモチベーションアップや定着につながる研修を継続する。</li> <li>→「学ぶこと、生きること、働くこと」、「地域建設業の魅力」の開催。</li> <li>・研修の効果を高いものとするため、新人研修は対面形式で実施する。</li> </ul>
		現場で役立つ力学研修	
		魅力的な職場作り	
情報系 研修	ICT（デジタル化）関連の研修	i-construction の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用のメリット・デメリットを幅広く伝え、ICT活用工事の推進につながる研修の実施。鳥取大学浜坂キャンパスの取組みとの連携を図る。</li> <li>→「i-constructionの基礎知識」、「ドローン計測安全管理」の開催。</li> </ul>
		CAD研修、デジタルDX研修	
維持系 研修	インフラ維持管理に関する研修	補修（点検）の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「橋梁点検実習」を新設するとともに、「予防保全」への本格転換、ドローンや画像計測技術等を活用した定期点検の効率化・高度化についての研修を継続する。</li> <li>→「橋梁点検実習」、「河川構造物の維持管理」の開催。</li> </ul>
		道路維持管理研修の拡充 各構造物の維持管理研修等	
災害系 研修	激甚化する災害復旧研修	被災状況に応じた復旧工法研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豪雨による浸水被害や土砂災害が多く発生していることから、引続きそれに対応した研修を実施する。</li> <li>→「激甚化する豪雨災害への対応」の開催。</li> </ul>
		改良復旧研修等	
その他		建築関係の研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築基準法や関連法令を学ぶ研修の新設や積算演習を対面で実施する等、業界のニーズを反映させた研修の拡充。</li> <li>→「建築基準法入門」、「建築工事の積算演習」の開催。</li> </ul>
		経営者のための研修	
第4期経営改善計画達成に向けた取組	<p>&lt;自主研修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3、R4ともに概ね計画通り。R5は、若手技術者のための基礎研修25講座、ICT関連の研修2講座、インフラ維持管理に関する研修7講座、激甚化する災害復旧研修4講座、建築関係の研修等6講座の計44講座開催し、受講者数も計画より100人多い4200人を目指します。</li> </ul> <p>&lt;受託研修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R5は技術者（技師）の80%程度の研修参加を目指しているが、R3、R4はコロナの影響もあり計画の半数程度の参加者数となっており、県土整備部へ継続して参加の働きかけを行い、計画の達成を目指します。</li> </ul>		

(単位：千円)

区分	R5年度予算A	R4年度予算B	増減額A-B
自主研修	20,058	20,369	△311
受託研修	4,683	4,332	351
とっとり建設産業の魅力発信講座	0	0	0
鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会	6,500	5,694	806
計	31,241	30,395	846

1-1-1 自主研修

業務名	内 容	収入予算 令和5年度 (令和4年度)												
<p>① 自主研修 (継続)</p>	<table border="1" data-bbox="355 338 1129 526"> <thead> <tr> <th>計画</th> <th>講座数</th> <th>受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5年度</td> <td>44</td> <td>4,200人</td> </tr> <tr> <td>R4年度</td> <td>41</td> <td>4,060人</td> </tr> <tr> <td>対前年</td> <td>3</td> <td>140人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 若手技術者のための基礎研修の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新人技術者のモチベーションアップや定着につながる研修を継続します。また、研修の効果を高いものとするため、新人研修は対面形式で実施します。</li> <li>新規研修「はじめての現場管理」では、土木施工管理技士資格取得も視野に、品質管理、工程管理、安全管理に絞った内容とし、現場管理ができる技術者育成のほか、早期に資格を持つことで、やりがいや責任感を育て、建設産業への定着を図ります。</li> <li>職場での良好な人間関係の構築や世代間ギャップを埋めるためのコミュニケーション手法、ハラスメント対策の研修を実施し、働きやすい職場づくりや定着率の向上につなげます。</li> </ul> <p>(2) ICT (デジタル化) 関連の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT活用のメリット・デメリットを幅広く伝え、ICT活用工事の推進につながる研修を実施します。また、演習等を含む実践的な研修については、鳥取大学浜坂キャンパス(建設技術実証フィールド)における取組と連携して講座内容等を調整していきます。</li> </ul> <p>(3) インフラ維持管理研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路橋の老朽化が進む中、建設コンサルタント職員を対象に、実際の橋梁を利用して橋梁の点検実習を行い、橋梁点検・橋梁保全の技術力向上を図ります。</li> <li>「予防保全」への本格転換、ドローンや画像計測技術等を活用した定期点検の効率化・高度化についての研修を継続します。</li> </ul> <p>(4) 激甚化する災害復旧研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度も全国的に自然災害が頻発し、特に豪雨による浸水被害や土砂災害が多く発生していることから、引き続き災害に対応した研修を実施します。</li> <li>最新の災害事例のほか、災害発生後の応急対策、現地踏査、測量等の留意点、設計事例の紹介など具体的な対策を解説します。</li> </ul> <p>(5) その他の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県内でも工事施工中の労働災害が発生していることから、安全管理について繰り返し学ぶ機会を設けるため、研修を増設し、年度初め、安全週間(7月)、衛生週間(11月)の時期に開催します。</li> <li>建築関係の研修は、建築基準法や関連法令を学ぶ基礎的な研修を新設するとともに、積算演習を対面で実施する等、業界のニーズを反映させた研修を実施します。</li> <li>経営者研修では、これからの地方建設産業のあり方や経営のポイント等を取り上げ、生産性の向上や魅力ある会社づくりにつなげます。</li> <li>Webセミナーによる研修開催は、受講場所の選択肢が広がる、移動時間を短縮できるなど、研修受講の効率化に繋がるため今後も継続します。新人研修や実技・演習を行う研修については集合形式での開催を予定しています。</li> </ul>	計画	講座数	受講者数	R5年度	44	4,200人	R4年度	41	4,060人	対前年	3	140人	<p>20,058千円 (20,369千円)</p>
計画	講座数	受講者数												
R5年度	44	4,200人												
R4年度	41	4,060人												
対前年	3	140人												

令和5年度自主研修計画一覧表

区分	新規	対面	研修名	加点 研修	CPD研修			受講者数 (見込・人)
					CPDS	コンサル 協会	建築士会	
実践 研修	若手技術者 のための基 礎研修		○ 学ぶこと、生きること、働くこと					30
			○ 測量基礎・丁張り(3日間)					15
			○ 地域建設業の魅力	技術				30
			○ 新人技術者のためのビジネスマナー	人権				30
			○ 新人技術者のための公共工事基礎(2日間)	技術				40
			○ 新人技術者のための施工技術基礎	技術				30
		○	○ はじめての現場管理	技術				30
			河川の基礎	技術	○	○		80
			やさしい構造力学	技術	○	○	○	80
			土質の基礎(2日間)	技術	○	○	○	80
		○	安全管理の基本	技術	○	○	○	120
			現場技術者のための安全衛生管理	技術	○	○	○	120
			事例から学ぶ現場の安全管理	技術	○	○	○	250
		○	建設現場のマネジメント	技術	○	○		120
			現場管理スキルアップ	技術	○	○		120
			技術者のための施工計画	技術	○	○		120
			工事施工中の環境配慮	技術	○	○	○	120
			仮設工	技術	○	○	○	120
			受発注者のための品質確保	技術	○	○	○	120
			新技術・新工法	技術	○	○	○	120
			○ 基礎から学ぶ土木工事積算(2回開催)			○	○	80
			建設工事の入札制度	技術	○			120
			コミュニケーション	人権	○	○		150
	人権に関する講習会	人権	○	○		150		
	メンタルヘルス	人権	○	○		260		
情報系 研修	ICT関連の 研修		i-Constructionの基礎知識	技術	○	○	○	90
			ドローン計測安全管理		○	○		60
維持系 研修	インフラ維 持管理研修	○	○ 橋梁点検実習			○		30
			河川構造物の維持管理	技術	○	○		60
			道路構造物の維持管理	技術	○	○		120
			橋梁点検と補修計画		○	○		60
			橋梁維持補修(PC橋)	技術	○	○		70
			橋梁維持補修(鋼橋)	技術	○	○		70
災害系 研修	頻発化・激甚 化する豪雨 災害への対 応研修		激甚化する豪雨災害への対応	技術	○	○	○	120
			斜面災害の発生原因と対策	技術	○	○	○	120
			事例から学ぶ災害対応(地震編)	技術	○	○	○	120
			軟弱地盤対策	技術	○	○	○	120
その他	建築関係の 研修	○	建築基準法入門	技術	○	○	○	50
			○ 建築工事の積算演習	技術			○	35
			建築工事の品質管理	技術	○	○	○	60
			電気・機械設備の品質管理	技術	○	○	○	60
	経営者に対 する研修		経営管理Ⅰ	経営	○	○		150
			経営管理Ⅱ	経営	○	○		150
計	5	10	44	38	35	35	19	4,200

※受講料 半日：3,300円、1日：5,000円、2日：10,000円、3日：15,000円、経営者：4,100円

### 1-1-2 受託研修

業務名	内容	収入予算 令和5年度 (令和4年度)
①県土整備部 技術職員研修 (継続)	技術職員の技術力向上、良質な工事執行の確保及び工事の監督業務の適正化を目的として、県土整備部技術職員研修を継続して受託します。 (鳥取県県土整備部技術企画課で研修内容を検討中)	4,683千円 (4,332千円)

### 1-1-3 その他の研修

業務名	内容	収入予算 令和5年度 (令和4年度)
とっとり建設 産業の魅力発 信講座(継続)	将来の県内建設産業の担い手確保を目的として小中学生を対象に建設産業への関心や就業意識を高めるための講座を継続して開催します。 ・出前講座を近隣の小中学校(河北小、西郷小、上北条小、河北中)で開催予定	0千円 (0千円)
鳥取県建設分 野担い手確 保・育成連携 協議会 平成29年1月 設立(継続)	鳥取県建設分野担い手確保・育成連携協議会では、各機関と連携しながら将来を見据えた持続可能な建設産業を目指し、建設産業の担い手の確保・育成のため事業を継続して推進していきます。 ○ICT促進(建設技術実証フィールド現場見学、体験実習等) ○書籍寄贈(けんせつ絵本、写真集等) ①研修等運営 ・とっとり建設産業の魅力発信講座、第6回とっとりけんせつ魅力発信フォトコンテスト(小中学生) ・魅力発信ガイダンス、UAV測量演習、CAD基本操作、土木積算、現場見学会、資格取得支援(1.2級土木・建築施工管理技士補、測量士補)、インフラの維持管理、地理総合(地図・地形、防災と地域調査)など(高校) ・リスクマネジメント講座(大学) ・1級、2級土木施工管理技士資格取得支援(既就労者) ②情報発信 ・SNSを活用した情報発信:協議会並びに関係団体の取組等 ・建設アーカイブ動画等制作 ③協議会運営 ・協議会運営人件費等	6,500千円 (5,694千円)
計		6,500千円 (5,694千円)

### 研修事業 収支予算一覧表

単位:千円

区分	科目	内 訳	金 額
収入	事業収入	・自主研修	20,058
		・受託研修	4,683
		・その他研修	6,500
	減価償却引当資産取崩収入		3,256
	計		34,497
支出	人件費	・役員報酬、給料手当、臨時雇賃金、福利厚生	13,447
	賃借料	・コピー機、パソコン、土地建物使用料	2,602
	諸謝金	・講師謝金(個人)	2,867
	委託料	・講師謝金(法人)	5,796
	ソフトウェア購入支出	・研修システム改修	3,256
	その他	・テキスト印刷代ほか	6,126
	計		34,094
	差引		403

## 1-2 図書等頒布事業

土木工事施工管理ハンドブック等、在庫図書の販売と管理を行います。  
けんせつ絵本の貸出増加の取組を行い、多くの方に建設産業の役割や大切さを広めます。

### ○令和5年度事業のポイント

第4期経営改善計画		R5年度事業のポイント
技術系図書の頒布	鳥取県と連携し、機会を捉えながら技術系図書の頒布を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術系図書の頒布を継続する。</li> <li>新規・改訂図書はなし。</li> <li>複写用プリペイドカードの販売中止。</li> </ul>
図書貸し出しの拡充	県内の未貸出の公共図書館への貸出の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>境港市民図書館に加え、鳥取市立図書館、米子市立図書館へ貸出を予定。</li> </ul>
	蔵書の増加 R3:100冊⇒R7:210冊	<ul style="list-style-type: none"> <li>100冊購入し蔵書を300冊とする。</li> </ul>
	図書室(センター)の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>引続き、倉吉市立図書館内にけんせつ絵本コーナーを設置。</li> <li>とっとり建設☆女星ネットワークと連携しけんせつ絵本のおはなし会を開催。</li> </ul>
第4期経営改善計画達成に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>県HPに積算内訳書公表に伴い、プリペイドカードの販売を中止します。</li> <li>図書の貸出は、蔵書を増やし2館同時貸出しを実現しており継続して実施します。</li> </ul>	

内 容		収入予算 令和5年度 (令和4年度)																																			
図書頒布 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> <li>土木工事施工管理ハンドブック等、在庫図書の販売と管理を行います。</li> <li>令和5年4月から県の専用HPに積算内訳書を掲載される予定であることから複写用プリペイドカードの販売を中止する予定。県では移行措置としてR5.4.1～R5.9.30は、紙閲覧と専用HPで掲載を併用する予定。</li> </ul> <p><b>R5年度図書等頒布一覧表</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>図 書 名</th> <th>部数</th> <th>販売単価 (円)</th> <th>R5 収入 (千円)</th> <th>R4 収入 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土木工事施工管理ハンドブック</td> <td>80</td> <td>2,600</td> <td>208</td> <td>650</td> </tr> <tr> <td>設計、測量、地質・土質調査共通仕様書</td> <td>5</td> <td>2,851</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>道路工事関係技術便覧</td> <td>10</td> <td>1,476</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>河川・海岸便覧ほか3種</td> <td>13</td> <td>1,069</td> <td>14</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>複写用プリペイドカード</td> <td>5</td> <td>3,000</td> <td>15</td> <td>780</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>113</td> <td></td> <td>266</td> <td>1,470</td> </tr> </tbody> </table>	図 書 名	部数	販売単価 (円)	R5 収入 (千円)	R4 収入 (千円)	土木工事施工管理ハンドブック	80	2,600	208	650	設計、測量、地質・土質調査共通仕様書	5	2,851	14	14	道路工事関係技術便覧	10	1,476	15	15	河川・海岸便覧ほか3種	13	1,069	14	11	複写用プリペイドカード	5	3,000	15	780	計	113		266	1,470	266千円 (1,470千円)
図 書 名	部数	販売単価 (円)	R5 収入 (千円)	R4 収入 (千円)																																	
土木工事施工管理ハンドブック	80	2,600	208	650																																	
設計、測量、地質・土質調査共通仕様書	5	2,851	14	14																																	
道路工事関係技術便覧	10	1,476	15	15																																	
河川・海岸便覧ほか3種	13	1,069	14	11																																	
複写用プリペイドカード	5	3,000	15	780																																	
計	113		266	1,470																																	
けんせつ絵本の貸出 (継続)	<p>(1) 計画的な貸出巡回の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R5年度は、新たに境港市民図書館に加え、鳥取市立図書館、米子市立図書館へ貸出を予定している。</li> </ul> <p>(2) 蔵書を倍増化 (R3:100冊⇒R4:200冊⇒R5:300冊)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度末で蔵書は200冊であり、R5年度は100冊購入し300冊を予定。</li> </ul> <p>(3) けんせつ絵本コーナーの設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度に住民の方が利用しやすい環境を目指して、倉吉市立図書館内に、けんせつ絵本コーナーを新設した。R5年度も引続き入替を行い100冊の設置を予定している。</li> </ul> <p>(4) とっとり建設☆女星ネットワークとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>けんせつ絵本のおはなし会を2図書館(米子市、倉吉市)で開催を予定している。</li> </ul>	絵本代 200 (300)																																			

### 【けんせつ絵本の貸出、おはなし会開催計画】

図書館	けんせつ絵本の貸出		おはなし会		備考
	貸出期間	貸出数	開催時期	参加人数	
米子市立図書館	R4.7月～R5.5月	延べ700	4/16(日)	30人	こども読書週間
鳥取市立図書館	R5.4月～R6.3月	延べ700	-	-	
境港市民図書館	R5.6月～R6.3月	延べ700	-	-	
倉吉市立図書館	-		7～8月	30人	夏休み期間
計		2,100		60人	

### 図書頒布事業 収支予算一覧表

単位：千円

区分	科 目	内 訳	金 額
収入	事業収入	・土木工事施工管理ハンドブック	208
		・複写用プリペイドカード	15
		・その他	43
	計		266
支出	人件費	・役員報酬、給料手当、福利厚生	75
	その他	・コピー機使用料ほか	244
	計		319
	差引		△ 53

### 1-3 試験検査事業

#### ○令和5年度事業のポイント

第4期経営改善計画		R5年度事業のポイント
技術（試験）の継承	試験件数の維持、確保	・試験精度を維持し、試験件数を確保する。
	6試験分類74試験項目の継承	・試験担当者の複数化を進めるなど試験実施体制の確立・強化を進める。
	新規試験の導入	・土質配合試験導入に向け、配合実施例を基に課題を整理する。
JISQ17025 (JNLA) の内部監査、更新の実施	試験精度の維持、確保	・内部監査体制を強化するため4名体制とする。 ・外部精度管理を実施する。
人材育成と確保	計画的な研修とOJT	・教育訓練計画を策定し、計画的に教育訓練を実施する。
調査研究・分析	土質関係（地盤改良）	・土質配合試験導入に向け、配合実施例を基に課題を整理する。（再掲） ・試験実施体制の確立に優先的に取組むため一時休止する。
	コンクリート関係（軽量コンクリート）	
	骨材関係（粒度試験分析）	
第4期経営改善計画達成に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化を図るため、業務の分業化、多能工化を進めていきます。</li> <li>・試験精度を維持し、信頼ある試験結果を提供するため、外部精度管理を実施します。</li> </ul>	

#### 【業務概要】

##### 1 技術（試験）の継承

- ・技術の継承を図るため、教育訓練計画を策定し計画的に教育訓練を実施するとともに、OJTを通じて試験担当者の複数化を進めるなど試験実施体制の確立・強化を進めます。
- ・顧客からの信頼を継続するため、試験精度を維持し試験件数の確保に繋がります。
- ・試験業務の効率化を図るため、業務の分業化、多能工化を進めます。

##### 2 JIS Q 17025 (JNLA) の内部監査、更新の実施

- ・ISO 17025 (JIS Q 17025) に適合する試験機関 (JNLA 登録事業所) として、内部監査体制を強化するため、外部講習会の受講により内部監査員を1名増員し、4名体制とします。
- ・試験精度を維持し、信頼ある試験結果を提供するため、コンクリートや骨材試験の外部精度管理を実施します。

##### 3 人材育成と確保

- ・教育訓練計画を策定し、計画的に教育訓練を実施します。（再掲）
- ・骨材試験に関する外部講習会などを受講し、新たな技術を高めるため積極的に研修に参加します。

##### 4 調査研究・分析

- ・土質関係：土質配合試験の導入に向け、配合実施例を基に、地盤改良の実例を取りまとめ、課題を整理します。
- ・コンクリート・骨材関係：試験実施体制の確立・強化に優先的に取組むため、令和5年度は一時休止します。

【試験項目別収入】

試験分類	令和5年度予算 A		令和4年度予算 B		増減額 A-B	
	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)	件数	金額 (千円)
土 質	2,060	23,760	2,110	24,582	△50	△822
骨 材	900	5,180	780	4,716	120	464
コンクリート	27,230	33,990	26,980	33,620	250	370
アスファルト	410	840	390	799	20	41
鋼 材	450	600	380	518	70	82
水	40	460	35	398	5	62
計	31,090	64,830	30,675	64,633	415	197

試験検査事業 収支予算一覧表

単位：千円

区分	科 目	内 訳	金 額
収入	事業収入	・試験検査収入	64,830
	雑収入		20
	受取地方公共団体補助金収入		1,800
	減価償却引当資産取崩収入		750
	計		67,400
支出	人件費	・役員報酬、給料手当、臨時雇賃金、福利厚生	36,812
	委託料	・試験機点検、校正	3,864
	光熱水費	・光熱水費	5,990
	什器備品購入支出	・電子天秤（2台）、切断機（1台）購入	2,550
	その他	・消耗品費ほか	10,732
	計		59,948
	差引		7,452

## 1-4 技術支援事業

老朽化が進むインフラの効率的・効率的な維持管理と建設産業の担い手確保が課題となっている中で、発注者支援（積算、現場管理、検査、点検から補修の維持管理業務等）の要請が増えています。

県・市町村のニーズに確実に応えるため、より一層の支援強化・充実に取り組みます。

### ○令和5年度事業のポイント

第4期経営改善計画		R5年度事業のポイント
インフラ整備・維持管理の支援	工事積算補助業務	・ 県受託は前年度並み ・ 市町村受託は増額（境港市下水道の増）
	現場技術業務・工事検査（補助）業務	・ 前年度と同様
	橋梁アドバイス業務 （インフラ情報マネジメントシステム含む）	・ 東北大学との共同研究成果である「インフラ情報マネジメントシステム」を活用した長寿命化修繕計画更新を含め受託額が増加
	コンクリートひび割れ診断指導業務	・ 前年度と同様 ・ 診断士資格取得による体制強化
	災害復旧支援業務	・ 前年度と同様 ・ 災害復旧支援業務へのデジタル技術活用について検討
インフラ関係データ、システムの運用・管理	道路台帳等修正業務	・ 前年度と同様
	電子成果品保管・管理業務	・ 前年度と同様
	橋梁アドバイス業務 （インフラ情報マネジメントシステム）	・ 共同研究成果である「インフラ情報マネジメントシステム」を活用し、長寿命化修繕計画更新を受託予定
	建設DX （ドローン、3Dデータ、遠隔立会）	・ 建設DX推進プロジェクトにより UAV 空中写真測量、3次元設計データの作成を内製化
高い技術力への支援強化と人材育成	センター職員の技術力向上	・ 計画的な研修受講、資格取得 ※R4実績：道路橋点検士 3名 ・ 3次元データ作成等先端技術に係る研修の受講
	賃金水準等詳細調査業務	・ 前年度と同様
	建設産業の魅力発信講座	・ 関係機関との連携 ・ 実体験を重視したプログラム
第4期経営改善計画達成に向けた取組	県受託事業は計画どおりの進捗、市町村受託は既に目標を達成している。 特に市町村支援業務は拡大しており、業務量に応じた支援体制の整備やITやデータ活用による更なる業務の効率化の取組みを進めていく。	

### 【業務概要】

- ・ 県、市町村からの各種受託業務を計画的かつ効率的に実施します。
- ・ トンネル、下水道推進・管更生など特殊工事の積算に取組み、積算技術と品質の向上を図り、発注者（県、市町村）の支援を充実します。
- ・ 市町村の工事積算・現場技術業務、橋梁補修アドバイス業務、さらに検査補助業務を実施し、総合的な市町村支援を進めます。また、災害発生時には経験と実績を生かし、迅速かつ確実な災害復旧支援を行うとともに災害復旧分野におけるデジタル技術の活用について検討を進めます。
- ・ 令和元年度から県で実施された橋梁直営点検について、市町村の点検・診断に拡大支援し、点検の効率化やコスト縮減に取り組みます。
- ・ 建設産業の生産性向上を図るため、建設ICT活用による技術支援として、UAV空中写真測量から3次元設計データの作成等、施工管理の効率化を促進する取組を進めます。
- ・ 令和2年から進めている東北大学との共同研究成果「インフラ情報マネジメントシステム」を活用し、市町村の橋梁メンテナンスサイクルに係る支援強化を図るとともに、点検診断から補修工事に関する一連データの管理活用を進めます。

### 〔事業費総括表〕

（単位：千円）

区分	R5年度予算 A	R4年度予算 B	増減額 A-B	備考
受託（県）	73,013	74,092	△1,079	
受託（市町村）	75,245	52,065	23,180	
その他	9,102	21,444	△12,342	
計	157,360	147,601	9,759	

(1) 受託 (県関係)

業 務 名	内 容	収入予算 R 5 年度 (R4 年度)	担当課
①建設工事下請取引等点検調査 (継続)	県発注の建設工事に係る下請取引等について適正化を図るため、その取引状況 (下請代金の見積・契約方法等) が建設業法の規定に違反がないか点検調査を行います。 (R5) 約 200 件 (R4) 約 200 件	4,341 千円 (4,341 千円)	総務研修課
②再生砕石品質実態調査に係る試験 (継続)	再生砕石は、既設の構造物 (コンクリート、アスファルト等) を破碎したものを原材料としており、原材料の均一性を確保することが困難なことから、新材と比べ品質規格を満足しないことが生じやすいため、センターにおいて、ふるい分け試験等を行い、品質を調査します。	854 千円 (854 千円)	材料試験課
③工事積算補助 (継続)	設計業務委託成果品をもとに、発注者用図面作成、設計数量のチェック及び算出、工事価格の積算等を行います。 (R5) 道路、河川、砂防・治山、下水道管更生 (R4) 道路、河川、砂防・治山、下水道管更生	29,117 千円 (30,446 千円)	
④ひび割れ診断 (継続)	センターのコンクリート診断士がコンクリート構造物に発生したひび割れの診断を行い、ひび割れ抑制の指導を行います。 (R5) 10 箇所 (R4) 10 箇所	1,940 千円 (1,910 千円)	
⑤新技術・新工法活用システム事前審査 (継続)	県内の建設業者等で開発された新技術等の利活用の促進と製品の販路拡大を目的に、その工法及び製品が公共工事に活用出来るかどうかを事前に審査を行います。 (R5) 5 件 (R4) 5 件	700 千円 (700 千円)	
⑥道路台帳等修正 (継続)	道路工事後の道路形状変更、供用開始の告示資料、道路台帳付図の修正、道路情報便覧更新作業、道路現況調査票や交付税基礎数値算定資料などの作成を行います。	13,678 千円 (13,677 千円)	
⑦工事検査補助 (継続)	当初請負対象設計金額が 15,000 千円未満の合否判定のみの工事検査について、請負業者が作成した工事完成資料の事前確認を行います。 (R5) 30 箇所 (R4) 30 箇所	1,012 千円 (1,012 千円)	建設支援課
⑧電子成果品保管・管理 (継続)	県工事及び測量設計業務に係る電子納品成果品 (CD 等) をオンライン電子納品システムに登録します。 (R5) 600 枚 (R4) 600 枚	5,896 千円 (5,924 千円)	
⑨賃金水準等詳細調査 (継続)	県発注工事において、専門業者 (とび、型枠、鉄筋等 5 業種) への下請契約が、適正な賃金水準で契約されているかどうか調査するもので、下請契約の見積金額と設計金額とを対比させた資料を作成します。 (R5) 600 工種程度 (R4) 600 工種程度	3,713 千円 (4,826 千円)	
⑩土木工事共通仕様書の改訂 (継続)	県の土木工事施工管理ハンドブック、業務共通仕様書の改訂作業の支援と電子書籍化を行います。	973 千円 ( 3,198 千円)	
⑪橋梁直営点検・診断 (継続)	橋梁直営点検の点検実地指導、診断指導、健全度判定会の運営・とりまとめを行います。 (R5)点検 50 橋 (R4) 点検 50 橋	6,300 千円 ( 4,900 千円)	
⑫公共残土利用促進 (継続)	県主催の建設発生土対策連絡協議会の開催補助を行います。	4,489 千円 (2,304 千円)	
計		73,013 千円 (74,092 千円)	

(2) 受託 (市町村関係)

業務名	内容	収入予算 R 5 年度 (R4 年度)	担当課
①工事積算補助 (継続)	市町村が発注する工事のうち、専門的な技術を必要とする工事の積算を行います。 (R5) 境港市、北栄町 (R4) 境港市、北栄町	22,190 千円 (15,992 千円)	建設支援課
②現場技術 (継続)	市町村が発注する工事のうち、専門的な技術を必要とする工事の現場技術業務を行います。 (R5) 境港市、北栄町 (R4) 境港市、北栄町	6,313 千円 (6,688 千円)	
③橋梁補修工事の積算、現場技術及び技術的アドバイス (継続)	市町村が発注する工事のうち、特に専門的な技術を必要とする橋梁補修工事に対するアドバイスをを行います。 共同研究成果である「インフラ情報マネジメントシステム」を活用し、長寿命化修繕計画更新をはじめ一連の橋梁メンテナンスサイクルを支援します。 (R5) 2市9町 (R4) 2市10町	45,008 千円 (28,126 千円)	
④工事検査補助 (継続)	市町村発注工事の工事完成検査について、請負業者が作成した工事完成資料及び現地の確認を行います。 (R5) 倉吉市、境港市 (R4) 倉吉市、境港市	1,734 千円 (1,259 千円)	
計		75,245 千円 (52,065 千円)	

(3) その他

業務名	内容	収入予算 R 5 年度 (R4 年度)	担当課
①災害復旧支援 (継続)	被災状況等の調査、復旧工法等の技術的助言及び査定設計書等の作成を行います。 (R5) 5件 (R4) 5件	3,000 千円 (3,000 千円)	建設支援課
②コンクリートひび割れ相談 (継続)	コンクリート構造物のひび割れをコンクリート診断士が調査し、原因、補修の要否及び補修方法を記載した「ひび割れ診断報告書」の作成に加えひび割れ抑制・防止対策等について指導・助言します。 (R5) 20件 (R4) 20件	2,000 千円 (2,000 千円)	
③建設DX推進プロジェクト (継続)	施工管理の効率化を図るため、UAV 空中写真測量から3次元設計データの作成を行います。 UAV を活用した動画、写真の撮影を行います。 (R5) 残土処分場点検 (R4) 残土処分場点検	4,102 千円 (3,283 千円)	
支援業務の効率化 (ドローンによる空撮等)	(建設DX推進プロジェクトへ移行)	一千円 (350 千円)	
橋梁マネジメントシステム開発共同研究	(橋梁アドバイス業務へ移行)	一千円 (12,811 千円)	
計		9,102 千円 (21,444 千円)	

技術支援事業 収支予算一覧表

単位：千円

区分	科目	内 訳	金額
収入	事業収入	・受託 (県)	73,013
		・受託 (市町村)	75,245
		・その他 (ひび割れ、ドローン、橋梁)	9,102
	計		157,360
支出	人件費	・役員報酬、給料手当、臨時雇賃金、福利厚生	81,278
	賃借料	・橋梁マネジメント、土木積算システム使用料	13,884
	研究開発費	・橋梁マネジメントシステム研究開発	3,000
	委託料	・橋梁点検外部委託	16,053
	什器備品購入支出	・ドローン購入 (1台)	400
	その他	・光熱水費ほか	19,679
	計		134,294
	差引		23,066

### 1-5 建設発生土受入事業

近年、民間処分場との競合、大規模事業への流用等による受入土量の減少や資材価格等の高騰等によるコスト増加に伴い収支は赤字となっていることから、処分料の値上げやコスト削減を行い収支改善に取り組みます。

#### ○令和5年度事業のポイント

(単位：千m3)

第4期経営改善計画			計画 受入 土量	R3まで 受入 土量	R4 受入 土量 (見込)	R5年 受入 土量 (予定)	受入 可能 土量	R5年度事業のポイント
開設中の 事業所	安定的な稼働	岩美第二 事業所	250	164	0	0	86	・閉所に向けた後始末工事 の検討。
		帽子取第 二事業所	455	176	44	27	208	・2週開所、2週閉所形態 を継続。
		小町事業 所	900	29	85	140	646	・NEXCO外から14万m <sup>3</sup> 受 入れ予定。
		小原事業 所	210	32	29	49	100	・鍵掛峠道路トンネル本体 工事から4.9万m <sup>3</sup> 受入れ 予定。
民間処分 場と競合 しない地 域の開所	・収支均衡のとれた各事業所の 運営 ・地域活性化に向けた跡地利用 の実現	中部県土 局管内	—	—	—	—	—	・当面保留。
		日野県土 局管内	—	—	—	—	—	・進展なし。
大規模事 業に必要な処分場	・県との連携強 化 ・支出負担の軽 減(協定の見直 し)	東部候補 地	—	—	—	—	—	・検討を中止。
計			1,815	401	158	216	1,040	
第4期経営改 善計画達成に 向けた取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入土量を定期的にチェックしながら、発注者や大口の搬出事業者に対し、予定土量の確実な搬入について働きかけを行っていく。</li> <li>・県に対して、持続的な建設発生土受入事業の確立を目指し、土量の確保、安定的な運営ができる仕組みづくりについて引続き要請する。</li> </ul>						



## 【事業概要】

### (1) 開設中の事業所

#### ①岩美第二事業所

- ・事業所の閉所に向け、県と協議を行っていく。

#### ②帽子取第二事業所

- ・R5年度の受入土量は、建設発生土対策協議会で集計した搬入予定量に、土質や搬出時期等を考慮し、大規模事業等への流用量を除いた2.7万m<sup>3</sup>を予定している。
- ・R4年10月から造成工事の効率化を図るため、2週おきの開所・閉所としており、R5年度も継続する予定である。
- ・持続的な事業運営が行えるよう、県と協議を行っていく。

#### ③小町事業所

- ・R5年度はNEXCO外からの受入土量を14万m<sup>3</sup>見込み、造成と暗渠排水管の施工を予定している。
- ・受入土量は建設発生土対策協議会で集計したNEXCO及びその他公共工事等の土量に、R4年度の実績等を勘案して算出している。
- ・R4年度はNEXCOのトンネル工事の遅れもあり土量が減となったが、先送りとなった搬出土量を見越して予定土量の上積みについて働きかけを行う。
- ・R4年度に引き続き埋蔵文化財調査を4月から冬場まで期間を予定している。

#### ④小原事業所

- ・R5年度の受入土量を4.9万m<sup>3</sup>見込み、造成と暗渠排水管の施工を予定している。
- ・受入土量は鍵掛峠道路トンネル本体工事からの搬出土量見込みであり、その他改良工事も予定されており、受入土量の上積みについて働きかけを行う。

### (2) 民間処分場と競合しない地域の事業所

#### ①中部県土局管内新規箇所

- ・当面保留する。

#### ②日野県土局管内新規箇所

- ・県から進展はない。

### (3) 大規模事業に必要な処分場

#### ①東部候補地

- ・志戸坂トンネル工事からの発生土受入れについて東部区域での候補地検討を行っていたが、R4年10月に県を通じて国に確認したところ、経済性で優る民間処分場への搬出を予定していることから検討を中止した。

### (4) その他

#### ①第2三谷事業所(鳥取市河原町)

- ・舗装修繕、調整池土砂撤去を実施し、R5年度に市へ引渡しを行う。

#### ②小町事業所の全体工事費の削減策等について

- ・全体工事費の増に伴い処分料の値上げを実施した。

## 受入収入一覧表

小町：1,914円/m<sup>3</sup>、小原：2,640円/m<sup>3</sup>、帽子取2：1,815円/m<sup>3</sup>（※小原、帽子取2はR5.4から改定予定）

地区	事業所名	R5年度予算 A		R4年度予算 B		増減額 B-A (千円)
		土量(m <sup>3</sup> )	収入(千円)	土量(m <sup>3</sup> )	収入(千円)	
東部	岩美第二 (岩美郡岩美町)	0	0	20,000	29,700	△29,700
中部	帽子取第2 (東伯郡琴浦町)	27,000	49,005	80,000	118,800	△69,795
西部	小町 (西伯郡伯耆町)	140,000	267,960	115,000	170,775	97,185
	小原 (日野郡日南町)	49,000	129,360	65,000	143,000	△13,640
計		216,000	446,325	280,000	462,275	△15,950

**R5 年度 工事・委託等予算一覧表**

(単位：千円)

地区	事業所名	支出予算額	備考
東部	第2三谷 (鳥取市河原町)	44,000	市道舗装補修、調整池土砂撤去 (R5 現年予算)
中部	帽子取第2 (東伯郡琴浦町)	41,000	場内造成工事 (R5 現年予算)
西部	小町 (西伯郡伯耆町)	8,000	場内造成工事及び暗渠配水管設置工事 R4 予算の繰越し R4:62,000 円、R5:8,000 千円
		142,000	場内造成工事及び暗渠配水管設置工事 (R5 現年予算)
	89,600	埋蔵文化財調査	
	小原 (日野郡日南町)	12,000	場内造成工事及び暗渠配水管設置工事 R4 予算の繰越し R4:26,000 円、R5:12,000 千円
		60,000	場内造成工事及び暗渠配水管設置工事 (R5 現年予算)
計		396,600	

**事業所別受入土量見込**

(単位：千m³)

地区	事業所名	受入期間	全体土量	R4 受入土量	R4 未受入累計	R5 受入土量	R5 未受入累計	R5 未受入可能土量	進捗率 (%)
東部	岩美第二	H28.12~R5 年度	250	0	164	0	164	86	65%
中部	帽子取第2	R2.2~R10 年度	455	44	220	27	247	208	54%
西部	小町	R3.10~R12 年度	900	85	114	140	254	646	28%
	小原	R2.7~R7 年度	210	29	61	49	110	100	52%
計			1,815	158	559	216	775	1,040	

**建設発生土受入事業 収支予算一覧表**

単位：千円

区分	科目	内 訳	金額
収入	事業収入	・帽子取2	49,005
		・小町	267,960
		・小原	129,360
	受取地方公共団体補助金収入	14,000	
計			460,325
支出	人件費	・役員報酬、給料手当、臨時雇賃金、福利厚生	30,317
	工事請負費	・帽子取2、小町、小原、第2三谷等	309,000
	委託料	・小町埋蔵文化財調査等	91,200
	その他	・事業所土地使用料ほか	11,813
	計		442,330
差引			17,995

**5 法人の運営・管理の運営**

(1) 理事会及び評議員会の開催について

①理事会

開催時期	内 容
R5 年 5 月	R4 年度事業報告、決算及び評議員会の開催について
R5 年 10 月	R5 年度職務執行状況について
R6 年 3 月	R6 年度事業計画書等について、評議員会の開催について

②評議員会

開催時期	内 容
R5 年 5 月	R4 年度事業報告及び決算について
R6 年 3 月	R6 年度事業計画書等について

(2) 監事監査の実施について

開催時期	内 容
R5 年 5 月	R4 年度決算監査
R5 年 11 月	R5 年度定例監査